



千葉市議会議員(中央区選出)

三井みわこ 議会報告



未来の福祉をこの街に!

平成24年第3回定例市議会報告

第3回定例会が終了しました。(9月7日～10月3日)

平成24年第3回定例会は、9月7日に招集され、10月3日に閉会しました。

本定例会では市長から提案された議案件数は、全43件(補正予算4件、条例議案9件、一般議案6件、諮問1件、決算関連議案1件、決算認定議案18件、人事議案4件)、また議員からの発議6件(条例1件、意見書5件)が審議されました。

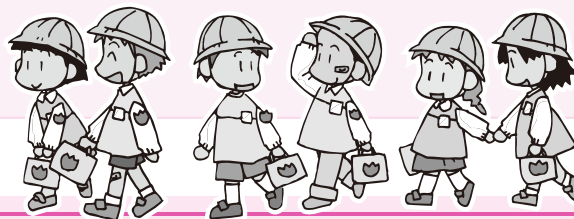
その結果、市長提出の全ての議案等については、全会一致もしくは賛成多数で原案どおり可決・認定・異議ない旨の答申がなされ、議員発議は、条例1件が否決、意見書5件が全会一致もしくは賛成多数で可決しました。



幼稚園における課題について

平成24年第3回定例市議会一般質問

子どもの健やかな育ちは、親のみならず、すべての大人にとっての願いであり、喜びです。今回は、子どもの成長に一番大事な時期における幼児教育、また、最近、少子化の影響で、様々な問題を抱える幼稚園の課題について、質問いたしました。



三井みわこの質問

保育所の待機児童が多い反面、幼稚園の定員割が多い状況は、大きな課題である。本市では、幼稚園及び幼児教育の充実について、どのような施策を講じられているのか？

【答弁】 昨年度は、「長時間預かり保育」の定員増や幼稚園の空きスペースを活用した小規模保育所の整備を開始し、本年4月に2か所の「幼稚園型小規模保育所」を開園した。

また、本年度は、園児の健康

増進及び保護者の負担軽減を図るため、「私立幼稚園健康診断補助制度」の創設をはじめ、幼稚園や保護者の方々から強い要望のある「長時間預かり保育」のさらなる拡充や「私立幼稚園就園奨励費」の増額を図ったほか、「教材費補助」、「特別支援教育補助」、「幼稚園協会研修事業等補助」などの各種事業を引き続き推進することにより、幼稚園及び幼児教育の充実に努めている。



三井みわこの質問？

私立幼稚園就園奨励費は、幼稚園に通園する保護者の経済的負担軽減策として、大変、有効な制度である。しかし、過去に大幅な単価の減額を行ったようだ？

【答弁】 本市では、市単独事業として、対象を全世帯に拡大するとともに、支給額についても、国の基準単価に市単独分を上乗せしているが、過去における減額措置は、平成20年度からは、高額所得者に対する支給額を2万円に

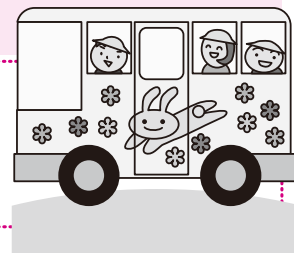
引き下げたほか、22年度には、国の基準単価が大幅に引き上げられたことに伴い、所得に応じて市単独の支給額を5千円から8千円減額した。なお、近年は、国基準どおり支給額の増額を図っている。

三井みわこの質問？

この就園奨励費の増額については、関係団体からも強く要望されているが？

【答弁】 今後も市単独支給分につきましては、現水準を維持するとともに、更なる充実について、引き続き検討する。なお、幼稚園の運

営経費や利用料等につきましては、国の動向を注視し、適切に対応する。



三井みわこの質問？

千葉市の幼稚園における、障がい児支援に関する財政的支援の現状は？

【答弁】 本市では、平成21年度より、「私立幼稚園特別支援教育費補助事業」を実施し、対象園児1人当たり10万円を補助、23年度においては、市内31園の幼稚園に対し、100人

分の補助金を交付した。また、千葉市幼稚園協会が実施する、「特別支援教育研究講座」に係る経費に助成し、幼稚園における特別支援教育の充実に努めている。

三井みわこの質問？

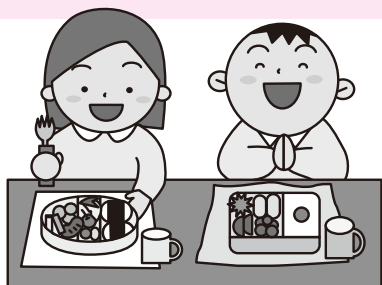
幼稚園への支援は、各自治体独自で助成が行われているが、しかし、対応の困難な幼児いわゆるグレーゾーンにある幼児についての支援は不十分である。早期発見、早期支援の観点から、グレーゾーンのお子さんには特に重要であるが、千葉市発達障害者支援センターでの具体的支援は？

【答弁】 センターでは、子どもの発達に不安を感じる保護者などからの相談に応じ、発達障がいについて理解を深めることや、早期に診断

を受けるための支援を行い、また、本年9月から、医師、保健師、センター職員が幼稚園を訪問し、「集団行動観察」の取り組みを開始している。

三井みわこの質問？

イギリスなど先進諸外国においては、発達障がい等の早期発見・早期支援は、かなり充実した内容が国立特別支援教育総合研究所の調査でも見てとれるが、本市においても、是非、推進されることを期待している。次に、新たな子ども・子育て支援制度では、現在の幼稚園制度は、どのように変更されるのか。



【答弁】 現在の幼稚園は、新たに創設される「施設型給付」の対象となる、新たな制度の下での「幼稚園」若しくは、「認定こども園」に移行することができる。なお、移行は、義務づけられておらず、これまでどおり、県からの私学助成等により幼稚園の運営を続けることもできる。

三井みわこの質問 ?

新たな制度の施行時期は、いつか？

【答弁】 消費税の引き上げ時期にもよるが、現段階では、平成27年度からの本格実施を想定している。



三井みわこの質問 ?

新たな「認定こども園」は、どのような制度になるのか？

【答弁】 認定こども園の類型には、幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型があり、このうち幼保連携型については、政令指定都市の市長が認可・指導監督を行う予定となっている。

また、財政措置は、「施設型給付」に一本化され、制度自体の複雑さや、補助申請の一本化など施設側の事務負担が大きく軽減されるとともに、本市としても望ましいものと考えている。

三井みわこの質問 ?

当局は、どのくらいの幼稚園が認定こども園に移行すると見込んでいるのか？

【答弁】 新たな「認定こども園」については現段階では、どの程度の幼稚園が移行するのか把握できない状況。今後、市内幼稚園に対し、

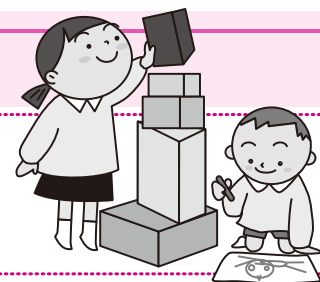
正確・迅速に情報提供を行うとともに、「認定こども園」への移行を希望する幼稚園の把握に努め、円滑に移行できるよう助言等行っていく。

三井みわこの質問 ?

新たな認定こども園の利用料は、どのように設定されるのか？

【答弁】 利用料は、現行制度の利用者負担の水準、利用者の負担能力を勘案した応能負担を基本として定めることとしているが、利用者

負担の水準については、財源のあり方と併せて制度施行までに検討する。



三井みわこの質問 ?

子育て中の親御さんからは、新たな認定こども園の利用料について、保育所より料金が高くなり預けられないのではないかという心配の声があるが？

【答弁】 利用料については、不透明な状況であるが、少子化対策としての子育てに係る経済的負担軽減の観点から、利用料の負担軽減と

良質な幼児教育・保育の確保の実現により、利用希望者の増加、さらには、待機児童解消へと繋がると期待している。

三井みわこの質問 ?

消費税を増税してまで行う制度であり、是非、保護者負担は軽減していただきたい。最後に幼保格差の問題について、現在、私立幼稚園の教諭は、かなり厳しい労働条件で仕事を強いられ、また、現場からは、せめて生活できる水準にして欲しいと、助成の拡充を求める声が多い。公立と私立の保育士では処遇に関する格差もあるが、新たな認定こども園の職員処遇について、当局はどのように対応するのか？

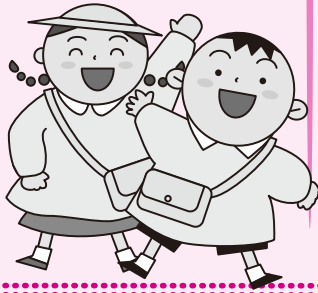
【答弁】 基本的には、各法人の内部規定に基づく内部管理の問題と考えているが、新たな「認定こども園」制度では、共通の給付制度に

より運営されることとなっており、人件費を含めた運営費の各施設間の公平性については、確保されるものと考えている。

《三井みわこの意見・要望》

今回は、数々の課題を抱える、子育て支援策の内、幼稚園をめぐる問題について、集中的に質問させていただきました。

人間形成の基礎となる、幼児期の教育・保育の問題は、私たち大人が真剣に考えなければならない問題です。待機児童対策、仕事と子育ての両立支援については、国、地方自治体も強力に推進しなければならない問題ですが、幼児教育の充実についても、大人の都合や既得権に捉われず、本来の子どもの権利や子どもの利益を第一に考え、取り組んでいくことが重要です。



国が制度を変えることで、戸惑い、不安になるのは、その当事者であり、現場にあります。保育所の待機児童問題で一番困惑しているのは就労を希望する親御さんであり、このたびの新しい認定こども園が就労の有無に関係なく入園できることに、多くの親御さんが期待を寄せているのは事実です。従来の「認定こども園」でもそうですが、例えば、秋田県、兵庫県、神奈川県、東京都新宿区など、行政が費用その他を補助しつつ、国ができないところを補っている自治体が多くみられたことも事実ではないでしょうか。



これまで、「認定こども園」は、様々な課題等から、全国で整備が進んできませんでした。今回、制度が大幅に改正され、整備しやすくなるようですので、現在の幼稚園が移行しやすい環境を整えていただきたいと思います。幼児教育は私学の精神から、独自の運営を希望するところも多くあると聞いています。是非とも、これらの幼稚園が、今後も安定的に運営できるよう工夫していただきたいと思います。



また、障がい児童の特別支援教育は、早期発見・早期支援が重要であることを、当局にも改めて、その重要性を

ご認識いただきたいと思います。気になるお子さん、特に障がい疑われる幼児に際しては、幼児教育・保育関係者や親御さんへの障がいに対する正しい理解・教育が必要です。

もちろん、私たちも、子どもは保護者だけでなく、地域のみんなで育てて行かなければならないという意識を持つことが重要で、そのような意識を地域全体で共有して、初めて地域に根ざした子育てネットワークが形成されるものと思います。

千葉市においても、新たな制度を施行する際には、関係諸団体をはじめ、保護者等の意見をよく聴き、幼児教育充実の視点を強く意識しつつ、準備を進めていただきたいと思います。

三井みわこ

プロフィール Profile

- 1971年 生まれ 千葉市中央区登戸在住
- 2002年 NPO法人ハートケアゆーあい（障がい者の施設）設立
- 2003年 聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
- 2006年 NPO法人政策塾「一新塾」（熊谷市長と同期）卒業
- 2007年 社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる

発行：三井美和香

千葉市中央区登戸1-11-13-203

TEL:043-216-5432 FAX:043-216-5433

E-mail: mm@mitsui-miwako.com

Twitter: twitter.com/mitsuumiwako



三井みわこで

検索

URL: <http://www.mitsui-miwako.com/>



*三井みわこは、教育未来委員会、少子高齢社会問題調査特別委員会に所属し活動しています。